

第 47 回 BMS コンファレンス 報告

機器共通部門 共通利用機器管理班 山口 信雄

1. はじめに (目的等)

「BMS」は Biological Mass Spectrometry の略称で、「質量分析によるライフサイエンス研究の発展を推進するとともに、人材の育成を通して、人、社会、ひいては地球の未来に貢献する」という理念のもと最新トピックスを中心に、質量分析の基礎や新技術紹介を含む充実したプログラムで、初のオンライン (Zoom) により開催された。

2. 期間・場所

期間 : 令和 3 年 7 月 1 2 日～7 月 1 4 日

場所 : オンライン (Zoom)

3. 参加者等

技術系職員以外に医・薬学、創薬、分析化学等の専門家、装置メーカー技術者約 200 名

4. 研修内容

質量分析基礎講座	絹見朋也 (産総研)
質量分析応用講座	杉村夏彦 (早稲田大学)
オミクス研究の未来<プロテオミクス分野>	石濱泰 (京都大学)、田岡万悟 (都立大学)、鈴木基司 (NIH)
オミクス研究の未来<メタボロミクス分野>	池田和貴 (かずさ DNA 研究所)、及川彰 (京都大学)、 齊藤公亮 (AMED GAPFREE)
新しい創薬における質量分析の役割	中山洋 (理研)、小林和弘 (協和キリン)、 守谷岳郎 (アクセリード)
ホットトピックス<ドーピング>	戸崎晃明 (競走馬理化学研究所)
皮膚を知る, 皮膚で知る	本田哲也 (浜松医科大学)、勝山雅子 (資生堂 GIC)
食と健康	平修 (福島大学)、澤田一恵 (築野食品工業)、 成澤朋之 (埼玉県産業技術総合センター)
若手未来セッション	筒井拓也 (ライオン)、七種和美 (産総研)
仮説構築のための統合オミクス: 複合オミクスと体系的オミクス	小田吉哉 (東京大学)
新技術紹介 (ショートプレゼン、ランチタイムセミナー、オンライン展示 等)	

5. まとめと感想

落雷による停電や装置故障等のアクシデントで一部受講できなかったが、最新の装置や分析法、キットを学ぶことができた。さらに学内では難しい RNA 解析やリポドミクスを外注する場合の依頼先や解析システムに関する情報が得られ、ユーザーにベターな対応をするための視野が広がった。また終売で困っていた試薬の代替品が見つかり、無料のサンプルを送ってもらえることになった。